建築ふくい

家づくり 街づくり 人づくり

一般社団法人 福井県建築組合連合会

組織拡大運動 中間報告 2面
省エネ住宅に関する講習会開催 3面
ものづくり体験 4面
明通寺 5面

http://www.kenchiku-fukui.com
e-mail:info@kenchiku-fukui.com

発行／（一社）福井県建築組合連合会　〒910-0859 福井市日之出5丁目4番7号　電話 0776-54-2615　FAX 0776-54-8878　発行人／角田義幸　編集／教宣委員会

謹賀新年

嶋崎 昌義 氏 撮影

年頭にあたり

一般社団法人 福井県建築組合連合会
会長 角田義幸

新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、ご健康にて新しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃は、連合会の事業推進にあたりまして、ご支援・ご協力いただき改めてお礼申し上げます。

コロナウイルス感染症が終息する気配もなく、若い方々が感染する傾向にある中、ワクチン接種の効果も見られ、対面による会議をはじめ、少しずつ行動制限が緩和されてきています。しかしながら、感染されて仕事に影響が出たとの声も聞こえ、誰もが感染してもおかしくない環境にあると思われます。気を抜かず、引き続き感染対策を心がけた行動をお願いいたします。

ウッドショック、この時代にロシアのウクライナ侵攻と、思いもよらぬ出来事が起こり、終息のめども立たず、私たちの生活にも大きな影響が出ています。

建築資材の高騰を始め、あらゆるものが値上がりして高止まりの傾向にあり、今後も先行きの見通せない厳しい状況が続くと思われます。また色々と建築に関わる法改正が行われています。

昨年の4月から解体・改修工事に対する石綿（アスベスト）対策が強化され、事前調査結果などの届け出の義務化、また10月からは事前調査は有資格者が行う必要があります。

今年の10月1日よりインボイス制度が始まりますが、この制度の仕組みが理解出来ない方もまだおられると思われます。国税局では、1月に各地において説明会を開催するので、ぜひとも迷っておられる方の参加をお願いします。組合員には、「免税事業者」である方が多く、「課税事業者」になるか、どちらかを選択しなければなりません。仕事にも大きな影響を与えると思われますが、制度については今後も機関誌やホームページを通して発信していきます。

脱炭素社会の実現に向けて、2025年4月より省エネ住宅基準の適合化が義務化されます。特に断熱材施工の技術不足も指摘されています。県連では、内容を周知するための事業を県より委託され、建材業者3社と共同で、4か年計画で事業者向け・施工者向けの講習会を開催しております。この機会に少しでも多くの方に受講していただければと思います。

昨年の8月5日には大雨による大きな災害が起こり、嶺南と嶺北地方の交通網が寸断される事態に、南越前町では床下浸水・床上浸水と多くの方が被害にあわれました。被害にあわれた方々にお見舞い申し上げます。災害要請につきまして地元の方を中心に対応して頂いております。

県連におきましても「応急仮設管理部」を核として、災害時に要請があったとき対応できる体制作りを進めております。組合員の皆様におかれましては、応急仮設住宅建設に伴う労働者供給登録のご協力を今一度お願いいたします。

ホームページも検討委員会の皆様のお力添えにより新しくリニューアルいたしました。より良い情報をお伝えできるものになったのではと思っておりますのでぜひ活用いただきたいと思います。

本年も、コロナ禍での事業展開となりますが、支部・ブロックの活性化を目指して取り組んでいきたいと考えます。組織拡大に向けても「現状維持プラス1」を目標に、皆様のご協力をお願いいたします。

最後になりますが、本年も皆様にとって健康で明るい年でありますようご祈念申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。

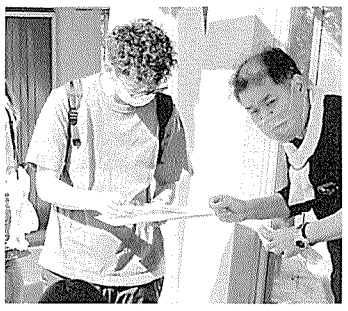
令和4年度

組織拡大運動 中間報告

各ブロックで行われている組織拡大運動の様子をご紹介します。

◆福井ブロック……
10月18日（火）4名参加
役員の現場で一緒に働いている方に、粗品を渡し、中建国保の手厚い補償や県連に加入することで安く共済を掛けられることなど、いろいろなメリットについて話をしました。今後も現場で一緒になった方々に勧めていきたいと思います。

◆坂井ブロック……
10月16日（日）8名参加
エンゼルランドで開催された「きてみて体験！ふくいのものづくり2022」の会場にて、体験教室参加者のご両親を対象に、知り合いの方で組合未加入者がいた場合、加入にご協力・ご紹介いただくよう説明しました。協力的な様子を示して下さいました。



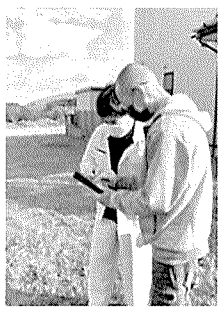
◆奥越ブロック……
11月1日（火）1名参加
松岡組合の組合員さんから、加入に興味を示している人がいるとのことで、資料をFAXしました。

◆丹南ブロック……
9月6日（火）6名参加
建築工事安全パトロールと一緒に現場廻りを行い、現場で仕事をしている人たちに粗品等を渡し、県連加入の要請を行いました。

◆嶺南ブロック……
●敦賀
10月12日（水）2名参加
推進員で共同設備の現場を訪問し、チラシ・粗品を渡しました。県連加入のメリットを説明し、労災保険・中建国保の加入について説明した上で、勧誘を促しました。

●美浜
9月12日（月）2名参加
推進員が各現場などで、休憩時間に新規加入の話をしている中、加入希望者の情報を入手し、本人と話をして、今回1名加入していただきました。

●小浜　9月22日（木）
現場にて、未加入者に粗品等を渡し、県連加入のメリットを説明しました。中建国保に興味を持ってもらった様子でした。



●高浜
8月21日（日）3名参加
高浜支部の太子講終了後、県連未加入の組合員に粗品を渡し、県連加入や中建国保について説明しました。
9月14日（水）8名参加
組合役員会において「組織拡大運動」への協力要請について説明し、未加入の役員へは県連加入のメリットや中建国保について説明し、加入している役員には加入促進への協力要請をしました。

全国青協幹部会議に参加して

熱意と団結の強い青年部を目指して

10年程前に私は青年部部長として熱海のニューアカオホテルで開催された幹部会議に参加していましたが、コロナの影響で閉鎖となり今回、清水青年部部長の代理として、11月20・21日に愛知県豊橋市で行われた青協幹部会議にかなり久方ぶりに参加してきました。

中央情勢報告はコロナ感染症拡大による第8波への懸念やマイナンバーカードの普及から保険証廃止といった身近な話の他に経済回復を焦点とした円安への対応・構造的な賃上げや建設キャリアアップが100万人到達など、これからの仕事に直結した話に会場の仲間が真剣に聞き入っていました。

今回のメインの話題は、各地青協の取り組み報告と決意表明でした。我々福井県連は、北信越青協（福井・石川・富山・新潟・長野）の一員として5県の執行役員達と準備してきた各建連のイベントや北信越青協会議の風景などを動画編集し発表してきました。他にも関東青協や関西青協など北信越より圧倒的に組合員の多い団体も発表しましたが、我々、北信越青協の方がはるかに良い出来だったと思いました（まぁ部長の人数が少ないのでまとまりが良いだけかもしれないですけどね。）

関西の県連役員の方と話をさせて頂いたら、月に1回は関西青協で集まることを聞いて大変驚きました。北信越で月1回集合は無理があるでしょう。

でもそのくらい都市部の方での組織力としての熱意や団結が強いんだなぁと思い、北信越も負けないくらい、これからも盛り上げていこう、と誓い合い、楽しい時間を過ごした幹部会議でした。

会議に出席する青年部の仲間

青年部会計
谷口喜則

3年ぶりのデモ行進

全建総連予算要求中央総決起大会

11月18日に東京日比谷公園大音楽堂で行われた、11・18賃金・単価引き上げ、予算要求中央総決起大会に参加してきました。全国の45県連・組合から1826人の仲間が集まりました。

コロナ禍、ウクライナ危機、急激な円安なども加わり、物価高、値上げが止まることなく続き、私たちの仕事と暮らしを圧迫し続けています。

今年の10月からは消費税インボイス制度の導入で、一人親方をはじめ中小零細事業者に、取引からの排除や新たな負担増をもたらすことが、明らかとなってきました。

制度の見直しと導入の延期、また、現場で働く仲間の賃金・単価の引き上げを強く要求し、かちとっていかなければなりません。

このような要求、想いを、各省庁の国会議員の方たちに伝え、要請書を渡して会は閉会となりました。議員の方たちの話を直に聞くこともできて、とても良い経験になりました。

閉会後は全建総連の宣伝カーに連なって、実に3年ぶりとなるデモ行進を行いました。銀座の街の信号を止めて行進し、シュプレヒコールをみんなで読み上げ、右手を突き上げるデモ隊はなかなかの迫力があったと思います。

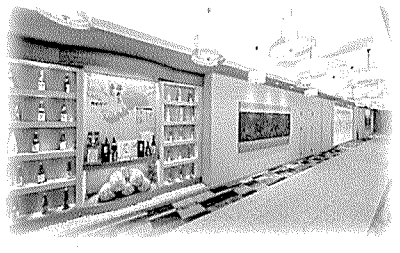
今回、参加して聞いた話は、難しい内容のものもありましたが、全国から集まった仲間の気持ちを諦めずに伝え続ける行動は大事なことだと思いました。

青年部長
清水裕介

力強くシュプレヒコールをする全国の仲間

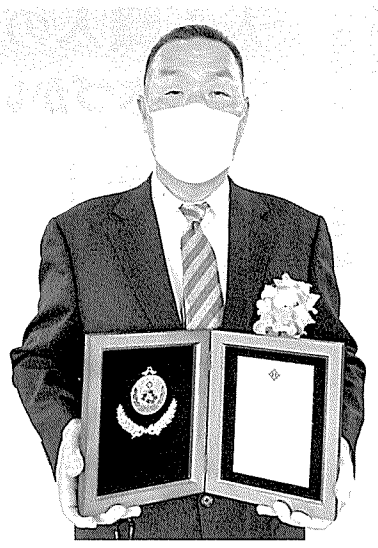
現場や会社の保険のことなら当店へ！
保険すっきり推進室
有限会社 IFP（アイエフピー）
〒910-0843 福井県福井市西開発2丁目101番1　フレンドタウン福井内
フリーダイヤル 0120-43-6699（火曜 定休日）
ホームページ http://www.hoken-sukkiri.com　e-mail mail@i-f-p.info
オフィス Tel 0776-25-9696（土、日、祝日 定休）

「新しいおもてなしの心」
をお届けします
北陸 あわら温泉 まつや千代
〒910-4196 福井県あわら市舟津31-24
TEL(0776)77-2560 FAX(0776)77-3540
ホームページ http://www.matuyasensen.co.jp
E-mail yoyaku@matuyasensen.co.jp



福井市技能功労者表彰

優れた技能を持ち、そして後継者の育成にも


受賞された髙橋隆義氏

11月14日に福井市役所にて福井市技能功労者表彰式が行われた。

1つの職業に長く従事し、他の技能者の模範となるような優れた技能を持ち、後継者の育成・産業発展に貢献している職人の表彰制度で、今年は9業種の方々が選ばれた。

建築大工部門は福井組合の髙橋隆義さん（63歳）が受賞された。

曲がりくねった松丸太の梁算段を駆使して組み上げ、入母屋袁甲造り屋根の住宅などを多数手掛けている。

最近では、越前陶芸村の旧水野九右衛門家住宅（国登録有形文化財）の復元工事にも棟梁として従事され、若手大工の指導もした。

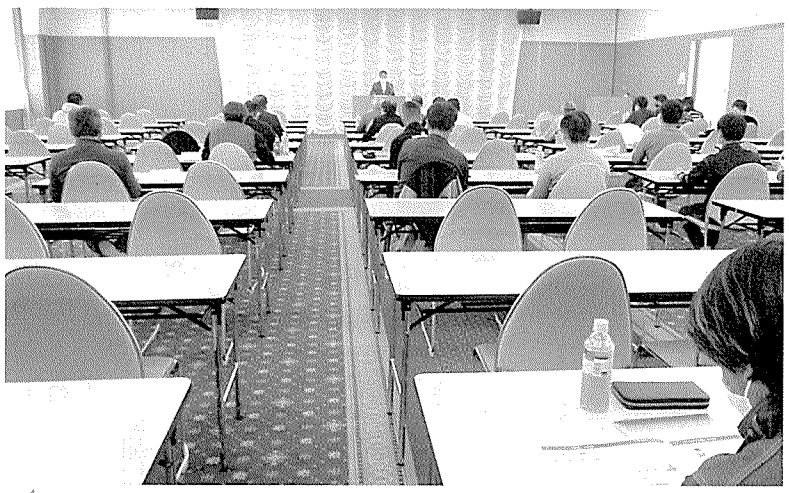
また、ご子息も大工として育て上げ後継者の育成にも務めている。

プレカット工法が主流となって久しい昨今、このような経験がある大工として最後の世代ではないか。

今後もますますのご活躍をお祈り申し上げたい。

福井組合組合員　近藤秋仁

インボイス制度説明会に参加して


熱心に耳をかたむける参加者

自分にはどちらが正しい選択になるか、正しい判断を

11月6日、越前市の武生商工会館にて、丹南ブロック主催のインボイス制度説明会が開催されました。まだコロナが収まらない中、約40名が参加しました。

説明いただいた金沢国税局の平井氏は、日曜日にも関わらず福井市より出向いて下さいました。

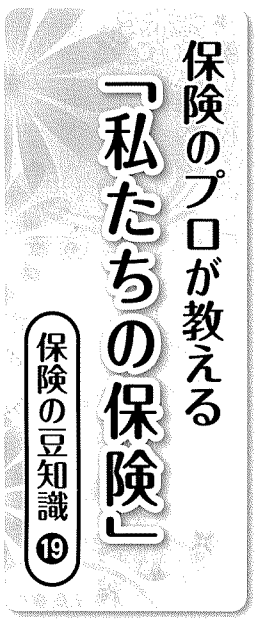
インボイス制度について、この年では分からないことが多かったのですが、説明会に参加して私なりに理解できたことは、手間請職人または下請負人は、元請の会社のやり方を聞いて、インボイス発行事業者（課税事業者）になるか、ならないかを判断した方がいいということです。元請の個人事業主で仕事をしている人は、今まで通りでもよいのでは、と言っていました。

なかなか難しい問題だと思っています。

神明組合通信員　三上清春

保険のプロが教える「私たちの保険」

保険の豆知識⑲



引き続き火災保険についてです。10月に業界全体で大幅な火災保険の改定がありました。各保険会社により、各保険商品、引受け物件ごとの保険料の増減や改定内容はまちまちでしたが、全体的にみて木造建物の保険が値上がり傾向のように思われます。

過去には、住宅ローン期間に合わせて最長36年の長期契約をすることで、大きな割引がつき、お得に加入できていた時期もあります。このような契約形態は、保険期間中の値上げや不利な改定の影響を受けない・割引があり割得・保険料を住宅ローンに組み込めるなどのメリットから大変人気がありました。

しかし、改定後は値上げ、保険期間は5年までとなり、メリットも薄くなりました。これは近年の大規模な自然災害や火災保険が世の中に浸透し、加入者の方々が上手に保険を利用するようになってきた影響もあるように思います。

保険会社も計算が合わなくなってきて、それを保険料に反映させるにはどうすればいいかを考えての変更、改定と思っていいかもしれません。

基本的に過去に契約している長期の火災保険は大切にして下さいね。

ファイナンシャルプランナー
損害保険トータルプランナー
二川英徳

2025年度から新築住宅省エネ義務化へ

省エネ住宅に関する講習会開催

10月27日に、「令和4年度省エネ住宅に関する講習会」を福井県国際交流会館と二ユーサンピア敦賀の両会場でオンライン開催し、両会場合わせて92名が講習を受けました。

開始にあたり、ふくい省エネ住宅ネットワーク代表の角田義幸氏・福井県土木部副部長の田中忠範氏からのあいさつ後、「健康で快適な省エネ住宅を経済的に実現する」と題して㈱松尾設計室一級建築士事務所代表取締役松尾和也氏より講演いただきました。

松尾氏によると、10年程前までは、省エネ住宅の必要性をあまり認識していなかったが、やっと省エネ住宅に対し関心がでてきて施工する動きになってきたということです。

全3回の講習会を受講した方には修了証を発行します。

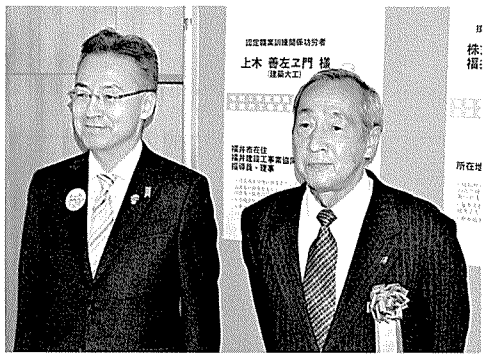
今後も、3年間実施いたしますので、今年度参加できなかった方はぜひ、来年度開催の講習会にお申込みください。

事務局長　山口真広

1回目の講習会の様子

認定職業訓練関係功労者に上木氏が受賞

外国人実習生にも技能検定員として伝えられること


杉本知事と受賞した上木氏

11月18日、福井県国際交流会館にて、「令和4年度職業能力開発関係お

よび伝統的工芸優秀継承者　知事表彰式」が行われました。

今回、福井県職業能力開発協会から認定職業訓練関係功労者として、川西組合の上木善左工門氏が推薦され、受賞しました。

上木氏は職業訓練に携わり、外国人実習生の技能検定員にもなっていることから、今回の受賞となりました。

上木氏は「このような賞を受賞することができてありがたい」と率直に喜びを表していました。

他に、職業能力開発関係12名・青年技能者8名・技能検定関係功労者3名・伝統的工芸優秀継承者3名が受賞されました。

今後も職業訓練にご尽力いただきたいです。

事務局長　山口真広

畑宣雄氏 伝統的技能者受賞

10月14日秋田県秋田市で第64回建築士会全国大会が開催され、日本建築士会連合会の令和4年度伝統的技能者に川西組合の建築大工である畑宣雄氏が受賞した。

建築士会の横山会長と受賞した畑氏（左）

この大会では、建築士に関する表彰のみならず、技能関連で優れた方も表彰の対象となっている。

福井県建築士会より技能関連でどなたかを推薦したいとの話から、宮大工棟梁であった故直井光男氏と薬師寺大改修に携わった、畑宣雄氏を推薦することになった。

畑氏は、福井県農林水産部県産材活用課主催の小学生に対して行っている「木づかい塾」でも指導者として参加している。

若手職人に対しても、直接技術を伝授するなど、積極的に活動している。

秋田市に出向くことができなかったため、11月10日建築組合連合会事務局内にて、福井県建築士会の横山義博会長から畑氏に表彰状を手渡される伝達式が行われた。

畑氏は「大変嬉しい。今後も伝統技術を若手に伝承していきたい」と喜びと思いを表していた。

事務局長　山口真広

大工職人の昔の技法を 木づかい塾開催

槍カンナを体験する児童

11月17日、福井県農林水産部県産材活用課主催事業で、小学生に木と触れ合ってもらうことを目的とする「木づかい塾」が大野市立富田小学校で5・6年生37名が参加し、開催されました。

福井県連から、地元大野の大工職人である山川栄治氏・小林茂氏ならびに畑宣雄氏・近藤秋仁氏、福井県建築士会から吉田輝代美氏が講師として参加しました。

吉田氏からスライドで木の特徴などの説明、近藤氏より奈良の薬師寺建立の話の後、畑氏による電動工具がなかった時代の丸太の加工方法を槍カンナ・マサカリ・手おのを使い実演してみせました。

子供たちは削られた木くずを興味深く見ていました。実演後、子供たちにも槍カンナ・ノコギリを使って丸太切りや墨付けなどを職人と一緒に体験してもらいました。

他にも県内の、越前市立花筐小学校・敦賀市立松原小学校・あわら市立金津東小学校・福井市立羽生小学校でも、県連の地元大工職人参加のもと、開催しました。

木に直接触れ、職人の技術を目の前にして、少しでも多くの子供たちが大工に興味を持ってくれることを期待したいです。

事務局長　山口真広

3年ぶりの奥越ブロック会「ものづくり体験」が開催

越前おおの産業と食彩フェア2022

すのこ作りを体験する親子

コロナ禍でも、少しずつ各地でイベントが開催される中、11月5日（土）・6日（日）には、大野市で「越前おおの産業と食彩フェア」が3年ぶりに開催されるということで、奥越ブロック会として「ものづくり体験」を行いました。

3年前と同じくすのこを製作して、持ち帰ってもらうため60㌢×36㌢サイズ用の材料を110セット分用意しました。

両日とも大変天気が良かったおかげで人出も多く、すのこ製作体験が無料ということもあり、初日の午前中で予定の数を上回り、急遽追加することになりました。

3歳の子供から85歳のお年寄りの方が体験し、釘を曲げてしまったり、力がなくて打ち込めなかったりと苦戦していましたが、組合員の声掛けで道具の持ち方・打ち方のやさしい指導に感心していました。

私も木には表裏・上下があることを知り、大変勉強になりました。

体験を通して、ものづくりに対する考え方や達成感、ストレス解消などを感じてもらえたらと思いました。

今後も続けていくべき事業だと実感しました。

奥越ブロック　ブロック長　竹嶋輝男

「こどもエコすまい支援事業」が新たにスタート！

一定の省エネ性能を有する住宅の新築やリフォーム等に対して、補助金がもらえます。

新築で100万円
リフォームで最大60万円

これまでの「こどもみらい住宅支援事業」との違いは？

新築（購入）の場合、対象は住宅の省エネ性能がZEH住宅のみ（補助金一律100万円/戸）となりました。

この事業は、**子育て世帯・若者夫婦世帯による高い省エネ性能（ZEHレベル）を有する新築住宅の取得や、住宅の省エネ改修等**に対して支援することにより、子育て世帯・若者夫婦世帯等による省エネ投資の下支えを行い、2050年カーボンニュートラルの実現を図ることを目的とした補助金事業です。

補助対象

高い省エネ性能を有する住宅の新築、一定のリフォームが対象（事業者が申請）

※補正予算案閣議決定日（令和4年11月8日）以降に契約を締結し、事業者登録後（こどもみらい住宅支援事業の登録事業者は、本事業の事務局開設日（R4.12中旬予定）（開設日以降に登録申請した場合は、その申請の日以降）に着工したものに限る。

子育て世帯・若者夫婦世帯による住宅の新築

対象住宅	補助額
○ZEH住宅 （強化外皮基準かつ再エネを除く一次エネルギー消費量▲20%に適合するもの） ※対象となる住宅の延べ面積は、50㎡以上とする。 ※土砂災害特別警戒区域における住宅は原則除外とする。 ※「立地適正化計画区域内の居住誘導区域外」かつ「災害レッドゾーン（災害危険区域、地すべり防止区域、土砂災害特別警戒区域、急傾斜地崩壊危険区域又は浸水被害防止区域）内」で建設されたもののうち、3戸以上の開発又は1戸若しくは2戸で規模1000㎡超の開発によるもので、都市再生特別措置法に基づき立地を適正なものとするために行われた市町村長の勧告に従わなかった旨の公表に係る住宅は除外とする。	100万円／戸

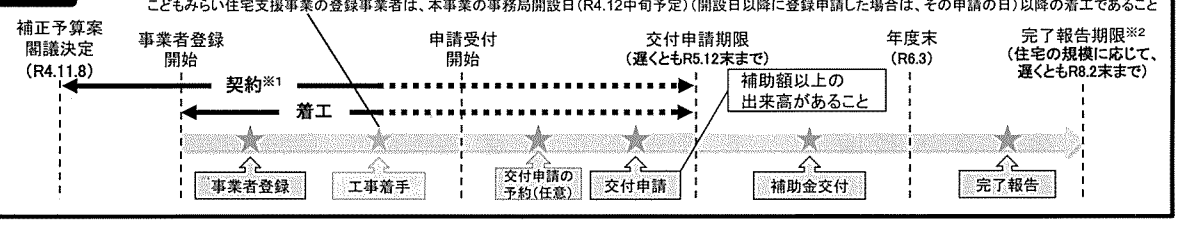
住宅のリフォーム＊

対象工事	補助額
①住宅の省エネ改修	リフォーム工事内容に応じて定める額 上限30万円／戸※
②住宅の子育て対応改修、バリアフリー改修、空気清浄機能・換気機能付きエアコン設置工事等（①の工事を行った場合に限る。） ※ 住宅の断熱性能向上のための先進的設備導入促進事業等（経済産業省・環境省）又は高効率給湯器導入促進による家庭部門の省エネルギー推進事業費補助金（経済産業省）により住宅の省エネ改修を行う場合は、①の工事を行ったものとして②の工事のみでも補助対象とする。	

※子育て世帯・若者夫婦世帯は、上限45万円／戸（既存住宅購入を伴う場合は60万円／戸）
※安心R住宅の購入を伴う場合は、上限45万円／戸

手続き

こどもみらい住宅支援事業の登録事業者は、本事業の事務局開設日（R4.12中旬予定）（開設日以降に登録申請した場合は、その申請の日）以降の着工であること



※1　注文：工事請負契約、分譲：売買契約　※2　完了報告期限までに省エネ住宅の新築工事全体が完了していない場合は、補助金返還の対象

＊　住宅の断熱性能向上のための先進的設備導入促進事業等（経済産業省・環境省）及び高効率給湯器導入促進による家庭部門の省エネルギー推進事業費補助金（経済産業省）とのワンストップ対応を予定

詳しくは　「こどもエコすまい支援事業 相談窓口」まで　TEL：03-6704-5537　受付 9:00～17:00（土・日・祝含む）

福井県内唯一の国宝建造物
明通寺

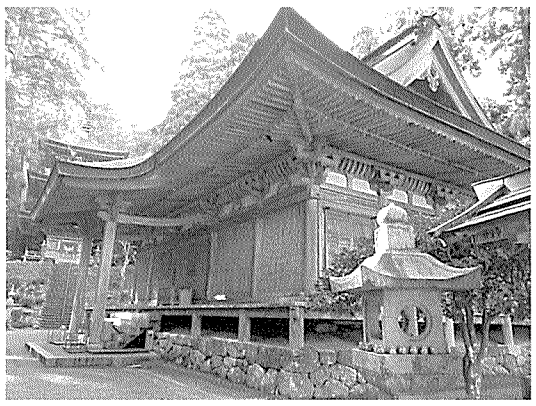
小浜市の市街地から南東方向の位置に、山々の木々と田園風景が広がる松永地区というのどかな所があります。

この地区には松永川が流れていて、上流付近の幽谷の地にひっそりと山寺がたたずんでいます。

明通寺という真言宗御室派の寺院で、本堂と三重塔は福井県内で唯一の国宝に指定されている建造物です。

国司として若狭に赴任した折、坂上田村麻呂が霊夢に導かれ、以前の蝦夷の地での戦いで命を落とした人の冥福を祈るために明通寺を建立し、自ら仏像を彫り安置したともいわれています。

ご本尊は「薬師如来坐像」ですが、その両脇に珍しい仏像が立っています。


国宝の三重塔（左奥）と本堂

一つは「降三世明王立像」です。邪気を踏みつける形が一般的ですが、シバ神と、その奥さん、つまり異教の神様を踏みつけています。

もう一つは「深沙大将立像」という魔を遠ざける力を持つと言われる仏教の守護神です。その昔、旅の途中で苦しんでいる三蔵法師を助けたという伝説を持つことから、「西遊記」の沙悟浄のモデルになったといわれています。「深沙大将」の像は日本では作例が少なくとても珍しいそうです。

現在の本堂と三重塔とは火災で焼失した後に再建されたもので、鎌倉時代中期の建物です。

本堂の奥に位置する三重塔は高さ22・15㍍。塔身が細い割に軒が深いのは、三段に組まれた三手先（みてさき）の組物により実現されています。

木鼻（きばな、水平材が柱を貫いて出た部分）の一種で拳花（こぶし花）がつくといった大仏様の特徴が見られ、塔に拳花が付く例としては明通寺三重塔が現存最古ということです。

明通寺から歩いて5分もかからない所に祖父の実家（現在は更地）があり、子供の頃、母に連れられ、兄と一緒にお茶摘みの手伝いをしたり、五右衛門風呂に入ったりしたことを思い出します。

当時は近くに有名な寺があるのを知らず、初めて訪れたのは大人になってからです。

40年前と変わらない田んぼ、山、川の風景が今後もずっと変わらぬように、また明通寺も出来る限り長く保存していってほしいと思います。

本当に静かないい所なので、一度訪れてみてください。

三方組合通信員　黒石　学

スズメは雀

昨年の秋、庭のサザンカの木に鳥のエサ台を取り付けました。材料は家にあったスノコと、現場でいただいてきたヒノキの外壁材の端材です。ホームセンターで買ってきた野鳥の餌を入れて観察しました。

1週間ほど後にエサ台の中を見てみると食べた形跡がありました。観察の頻度を上げると食事中の小鳥を発見。スズメです。さらに良く見ようと近づくと、さっと逃げられてしまいました。それならと、室内からガラス越しに観察するのですが、ガラス越しでも気配を感じるのか飛んで行ってしまいました。こちらも考え、今では感付かれないようにカーテンを閉めて隙間から観察しています。

ガラス越しにスズメの観察

餌の様子をみたところ、口に合わないのかトウモロコシだけが残っていたので、エサを変えてくず米や青米にしました。餌を食べにくる数はだんだん増え、多いときは10羽を超えます。

スズメの生態を調べて驚いたことは、生息地は都市、農村、里などの人の居住地付近であり、深い森や山地にはいないということです。人間社会の近くに生息し、人間や人工物の恩恵を受けて共生している典型的な動物だそうです。人にとっては、稲穂を食べる害鳥であるとともに、害虫を食べてくれる益鳥でもあるとのこと。

いま、スズメの個体数が激減しているそうです。減少原因についてはよくわかっていないようですが、住宅の構造の変化にも一因があるようです。昔からの住宅には瓦の下や軒下に多くの隙間があり、巣作りに適したところが多かったようです。年々、気密性の高い住宅の普及によって営巣場所の減少も影響しているようです。

ということで、今度は巣箱を作って軒先につけて、子育てを観察してみようと思います。乞うご期待。

松岡組合通信員　北川純二

中建国保より
インフルエンザ・肺炎球菌の予防接種をうけたら

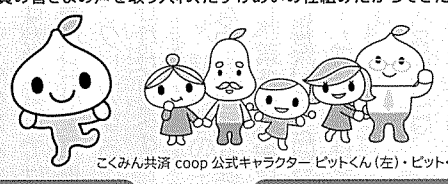
インフルエンザや肺炎球菌による肺炎にかかると、重症化して健康を著しく損ねるおそれがあります。中建国保では、みなさんの病気予防と負担の軽減のために、その費用の一部に対して補助をおこなっています。

■予防接種に対する中建国保の補助

	インフルエンザ	肺炎球菌
対象者（接種日に資格があること）	中建国保に加入しているすべての人	中建国保加入者で年度中に65歳、70歳、75歳の誕生日を迎える人 ※60歳から65歳未満で心臓、腎臓、呼吸器などに重い障害がある人も対象。
対象となる予防接種	流行性・季節性問わず	市町村が実施する定期予防接種
補助額	接種費用に関わらず、1人あたり2千円を年度内に2回補助	接種費用に関わらず、1人あたり2千円を補助

みんなの安心を支える保障
こくみん共済
個人定期生命共済・こども定期生命共済・熟年定期生命共済・傷害共済・個人賠償責任共済・終身生命共済・個人長期生命共済

“もっと多くの人が安心できる共済にしてほしい”
組合員の皆さまの声を取り入れ、たすけあいの仕組みだからできた保障です。


こくみん共済 coop 公式キャラクター ピットくん（左）・ピットくんファミリー

子育てをがんばるパパとママを応援！お子さまのための総合保障
こども保障タイプ
月々の掛金 1,200円
▶加入できる方 0歳～満17歳の健康な方
■入院保障は最高365日分、日額1万円！
■子育て・教育のエキスパートがサポートするサービス「こども相談室」をご提供！

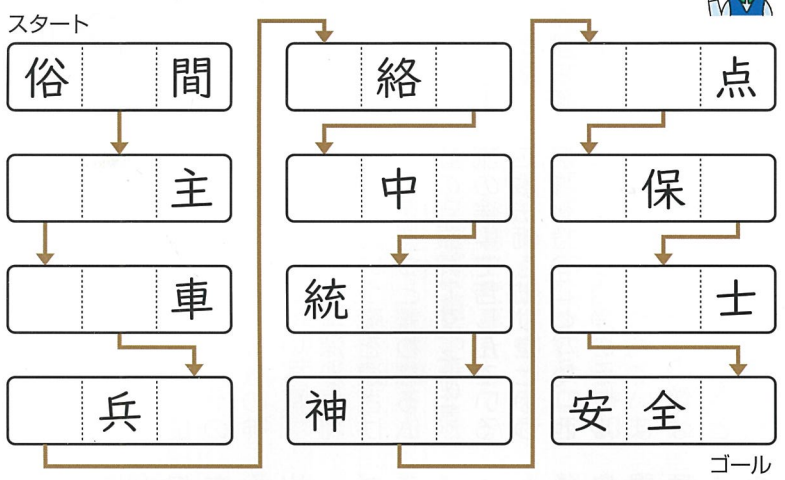
入院・手術・先進医療など医療に手厚い保障
医療保障タイプ 2口
月々の掛金 2,300円
▶加入できる方 満18歳～満64歳の健康な方
■先進医療の保障は最高1,000万円！
■入院保障は1日目から、日額1万円！
※60歳以降、保障額が変わります。

入院・障がい・死亡まで幅広くカバーする総合保障
総合保障タイプ 2口
月々の掛金 1,800円
▶加入できる方 満18歳～満64歳の健康な方
■死亡保障は最高1,200万円！
■入院保障は1日目から、日額は最高5千円！
※60歳以降、保障額が変わります。

そのほかにも、備えたいリスクに合わせて、ラインアップから充実の保障を選べます。詳しくはリーフレットをご覧ください。

第210回 福井県連のクイズ

次の空欄に下のリストの漢字を入れ、三字熟語をつくりましょう。
なお、矢印のある空欄には同じ漢字が入ります。



リスト　邪 力 的 世 天 急 通 短 弁 過 救 鬼 率 護

リストの中で使わなかった漢字を組み合わせると、三字熟語になるのでつくってみましょう。

答えをハガキに書いて令和5年2月12日迄に県連あてに送って下さい。

解答のハガキには、郵便番号・住所・氏名・年齢・組合名を記入して下さい。

答え　□□□

Eメールからもご応募できます。
info@kenchiku-fukui.com
県連のホームページ「お問い合わせ」からも送れます。件名に「福井県連のクイズ」と入力してください。

正解者の中より抽選で5名の方にクオカードを差し上げます。

第209回パズル 答え

❶ア5 イ9 ウ3 エ8 オ2 カ1
❷キ1 ク2 ケ6 コ2 サ9 シ8

当選者発表（応募総数14通）

福井第一	山本　佳孝	様
金　津	北口眞由美	様
武　生	仲倉　充長	様
今　庄	辻　弘和	様
一　般	阪谷　快斗	様

紹介

我が町のここが自慢

みどりに関する総合施設 福井県総合グリーンセンター

福井県総合グリーンセンターは、坂井市丸岡町にあり、近くには福井大学医学部付属病院があります。

この施設は、みどりを愛し、みどりを生活のなかに広げる知識や技術の普及啓発と林業に関する試験研究を行うために、昭和55年にオープン、平成4年には、みどりや木に関する文化・教育・体験ゾーンとしてグリーンパークが完成し、みどりに関する総合的な施設となっています。

我が子が小さい頃によく遊びに行きましたが、今ではたまに、娘の犬たちの散歩相手となって、引きずり回されているくらいです。

300㍍にもわたるケヤキ並木、通称タマネギハウスと呼ばれている花の展示温室、約1100種類、75000本もの外国樹種、薬用・香木樹種、郷土樹木などが植栽されている都市緑化植物園があります。

公園が一望できる展望台があるシンボル的なウッドリームフクイや子どもたちに人気のからくり時計があるウッドハウス九頭竜は、雨の日でも利用できる施設になっています。

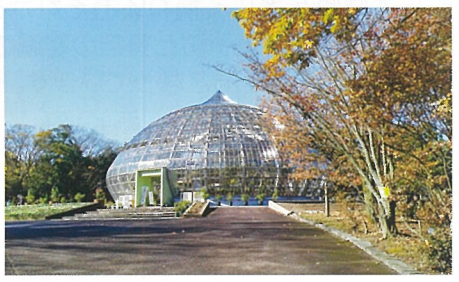
そのほか、ミニボート池・水上アスレチック遊具・ローラー滑り台・大型木製遊具のあるわんぱく広場などがあり、子どもたちは、一日中自然の中で遊んでいられます。

園内では、季節ごとにいろいろな花が咲き、木の葉が色を変えていきます。年間を通して、健康のために散歩をしている人たちも多くいます。

冬の季節は、2月ごろまで、タマネギハウス周辺がイルミネーション飾られています。

また、木材産業に関する研究施設でもあるので、県産材の普及や製品などへの利用に関しての情報も発信しています。木工体験や親子での工作教室などに関する催しや寄せ植えなどの植物に関するイベント、展示会や相談会なども行われています。興味のある方は、ホームページを確認してみてください。

丸岡組合通信員　高嶋信博


シンボルのタマネギハウス

三国木部ビオトープ公園再生プロジェクト

地域のみんなでつくるホタルの里

坂井市三国町の三国木部まちづくり協議会は、令和4年度から3年の計画で既存のビオトープ公園を再生し、ホタルが舞うホタルの里を作りたいとプロジェクトを立ち上げました。

さかのぼること平成21年3月、福井県は「福井・坂井の農業農村再生計画」を策定し、農用地の利用集積といった近未来型の農業政策を進めてきました。

三国町木部地域一帯でも地元農業者の念願でもあった農業用排水路の暗渠化が整備され、営農環境が向上する一方で、排水路に生息している生き物たちには、すみかを失ってしまうことになりました。

排水路の暗渠化事業に合わせて池や山を構築したビオトープ公園も整備されましたが、整備後十数年が経過した現在、管理者の坂井市と地域住民が交代で草刈りや剪定（せんてい）などをするものの、生き物が生息できるまでの環境になっていませんでした。

今年度立ち上がったプロジェクトは、地域住民からできるだけ多くの意見を取り入れ、専門家や専門業者とも協働しながら自然豊かな場所としてよみがえらせ、ホタルが舞い、みんなが集う公園を作りたいという目的で進んでいます。

令和4年5月からは、第1回ホタルプロジェクトワークショップが開催され、子供たち5人を含む地域の方々30人が参加し、現在までに計3回開催されています。

私の子供が通う坂井市立三国南小学校への出前授業も5月、6月と2回行われ、5・6年生65人が参加し、ホタルの光を作る実験などをしながら生態や自然との共生を学びました。

「坂井市とも情報を共有して連携を深め、今後もホタルプロジェクトチームとして活動メンバーをもっと増やしていきたい。地域住民の方にはサポーターズというかかわり方もあります」と、三国木部ホタル研究所所長の森岡正己氏はおっしゃっていました。

現在、活動メンバーは40人ほどで、今年度中にはさらに幅広い世代に声をかけ、80人程度まで活動の輪を広げたいと目標を語っていました。

自分が住み暮らす地域での活動を知り、将来に豊かな自然を残す活動に賛同し、この機会に私も参画したいとプロジェクトチームに入らせていただきました。

県内各地には、まだまだ自然豊かな場所もあるとは思いますが、人間の住みやすくしたいという考えだけでは、生態系が崩れていくようです。人間のすみかを仕事にしている私たちだからこそ、生き物全体のすみかも考えていきたいと思います。

三国組合通信員　南信博

日之出5丁目から

▼今年の春、妻の実家の母親が亡くなり一人暮らしで後継ぎがいなかったため、空き家となってしまいました。

▼妻の姉妹で何とか活用できないかと話し合いを進めていましたが、利用者がいないため一周忌後やはり解体するそうです。

▼私自身地元で空き家改修のボランティア活動などを行ってきましたが、近年の空き家増加に改修が追い付かず地区でも問題化しています。

▼近頃、古民家リフォームブームと言われていますが、経験では相続問題などハードルが高く、クリアするには時間がかかります。

▼そのため妻の実家のように解体とまではいかず、税金問題などで放置しているとしか思えないような状態の家が多く見られます。建築業界にとっても新築物件減少につながり悩みの種です。（「人口減少核家族」など不可抗力かも知れません。）

▼ある地区では行政が公園にするために解体の補助を行っていた期間があり、空き家解体がかなり進んでいました。

▼地区にとっても、持ち主にとっても、使いやすい制度がないと個人の責任だけでは、空き家増加を止めることは難しいのかと思います。

新しい仲間

福井　宇随　裕平　33才
〃　北梶　仁美　54才

訃報

越前　山本　正幸　72才

謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。